

### 公益社団法人

# 日本山岳会

群馬支部報

第6号

平成29年 7月19日

### 支部長就任にあたり

## 自分の世界をさらに深めるために

公益社団法人日本山岳会 群馬支部長 北原 秀介

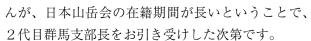
群馬支部は4年前(平成23年7月)に支部設立最 少人数の20人で発足し、支部長に田中壯佶氏、事務 局長に八木原圀明氏とわが国ヒマラヤ登山に大きな 足跡を残されたお二人のリードで始まりました。

その後、八木原氏は日本山岳協会長(現日本山岳・スポーツクライミング協会長)となられ、事務局長を根井氏が引き継ぎ、支部会員も41人と倍増しました。

本年は、四支部(千葉・茨城・栃木・群馬)合同 懇談会のホスト役も無事に終え、支部としての活動 も十分軌道に乗ったと言えます。しかし、残念なこ とに4年間を支部活動に御尽力くださった田中支部 長から、勇退のお申し出があり、北原が群馬支部長 を引き継がせていただくことになりました。

私は1976年に日本山岳会会員となりましたが、青春時代を社会人山岳会に籍を置き、現在の体型からは想像もできないでしょうが、主に剱岳の氷壁と岩壁を好んで登っておりました。また、地質学を専攻したことから研究のフィールドを南八ヶ岳とし、年

間200日以上を行者小屋で過ごした思い出があります。記録に残るような山歴はありませ



群馬支部の会員は、高年齢者が多いにもかかわらず、支部主催の山行の他に、地元の山からヒマラヤまでと様々な個性ある「山屋」の集団です。

退任された田中支部長の言葉に以下があります。 「山岳に関する多岐にわたる分野でそれぞれが自分 の世界を持ち、それを継続し、さらに深めようとす る人たちの集まりである」。

支部長を引き継ぐにあたり、この言葉を基本理念として、集団での計画的な登山を活発化させると同時に会員個々が独自の山登りを楽しみ、その履歴を共有し、例会後の酒席で機嫌よく語り合えるような居心地のよい集団を維持していきたいと考えております。



### リレーエッセイ⑥「夏の初めに思い出すこと」

この原稿を書いているのは6月の下旬。毎年この時期になると思い出す風景がある。一つは生まれ育った家の2階で、地図を広げ、ガイドブックを重ね、友と夏の山行プランを練っている中学生時代の自分の姿。山岳部とはいっても中学生の山岳部。年に1度夏休みの合宿が最大にして唯一のビッグイベントだった。

そんな中でも忘れられないのが野反湖畔での合

宿。これがもう一つの風景。峠に小さな小屋があった。小屋を出ると野反湖に張り出した小さな広場があり、湖を眼下に、草原状の八間山やエビ山を見渡す気持ちの良い場所だった。夜はそこでキャンプファイヤー。黙って火を見つめる顧問の先生のニッカーボッカー姿。古い映画の1シーンのようにはっきりと浮かんでくる懐かしい古い山の思い出だ。 (根井 康雄)

## 平成29年度 節遠部處に北原庭

公益社団法人日本山岳会群馬支部の平成29年度通 常総会が5月17日、前橋市の県社会福祉総合センタ ーで開かれた。委任状8を含め29人が出席した(総 会時の会員数41人)。議長に田中支部長、書記に宮 川氏を任命し議事に入った。

議案に添って平成28年度事業報告、決算報告、お よび会計監査報告が承認された。その後、事務局か ら平成29年度事業計画案、同予算案、規約改正、自 然保護活動、支部山行、役員改選などの提案があっ た。

この中で「規約改正」については、(準会員)(役員) (役員会) の項目を設けることが新たに提案された。 会員から、提案された(役員会)の第1項と第2項 を入れ替える意見が出され承認された。

「役員改選」では田中支部長から3月の例会で「群 馬支部は4年を経て軌道に乗ってきた。支部長職を 退きたい旨を申し入れ了解された。今後、さらに活 発な支部になるよう期待したい」との意向が示され、 平野副支部長からも退任の意向が示されていた。こ れを受けて4月22日に役員選考会が開かれ、総会に 下記の新役員案が提案、承認された。



総会後の懇親会(ラシーネ新前橋)

▷支部長 北原秀介(新) ▷副支部長 黛利信 (新) ▷会計 荒木輝夫(留) ▷監事 中山達也(同)、 鈴木良徳(新)▷事務局長 根井康雄(留)

自然保護活動は北原新支部長が自然保護委員長を 兼任する。全国大会への参加、山行委員会の周期登 山に合わせての清掃登山と自然観察会などの計画に ついて説明があった。

支部山行については、山行委員会から、山行回数 を年4回から6回に増やし、より多くの参加者を得 て、充実した支部山行計画が提案された。

## 四支部合同懇談会 ブロックの交流深める

2月18・19の両日、富岡市の妙義グリーンホテ ルで、1年前から実行委員会を組織して準備を重 ねてきた千葉、茨城、栃木、群馬の四支部合同懇 談会が開かれた。群馬支部としては初めての開催

主毛かるたで盛り上が



となるが、当日は4支部ほか木暮理太郎の足跡を 語り継ぐ会などから50人を超える参加者があり、 1日目の活動報告、講演会、懇親会から2日目の 神成山山行、富岡製糸場などの観光まで、無事に 全日程を終えることができた。

次回の4支部合同懇談会は来年2月、栃木で開 催される。



神成山で早春の低山を満喫

### 日本山岳会群馬支部 平成29年度年間予定表

	行 事 名	期日	場所	内 容	担 当
共益	群馬支部通常総会	5月17日	群馬県社会福祉総合センター (前橋)	支部総会	事務局
	群馬県山岳団体連絡協議会総会	5月22日	群馬県社会福祉総合センター (前橋)	協議会総会	協議会理事・会計
	群馬県山岳連盟総会	5月27日	群馬県社会福祉総合センター (前橋)	岳連総会	岳連理事・参与
共益	第7回支部山行	5月28日	荒船山 (下仁田・南牧)	支部山行	山行委員会
	日本山岳会通常総会	6月24日	主婦会館 (東京四谷)	JAC総会	会員
共益	第8回支部山行	6月25日	湯ノ丸山	支部山行	山行委員会
	谷川岳山開き	7月2日	谷川岳	神事・イベント	会長・有志
	関東地区合同実務者情報交換・交流会	7月8日	JAC (東京)		会長・事務局長
	日本山岳会自然保護全国集会	7月9・10日	岐阜	基調講演・フィールドスタディなど	自然保護委員会
共益	支部報第6号発行	7月19日			事務局
共益	第23回支部例会	7月19日	高崎南公民館 (高崎)	例会	事務局
公益	ぐんま山フェスタ2017	7月22·23日	群馬県庁	講演「健康登山(仮称」マナスル 登頂記念映画 木暮理太郎コーナ - 写真展ほか	事務局
	国体関東ブロック大会	7月29・30日	前橋	競技運営	運営員
公益	山の日イベント	8月11日	谷川岳周辺 (みなかみ町)	登山・ハイキング等 (岳連チャレンジキッズ併催)	事務局 山行委員会 自然保護委員会
共益	第9回支部山行	8月11日	谷川岳周辺 (みなかみ町)	上記イベントと併催	同上
	山の日記念全国大会	8月11日	那須		JACほか
	新入会員オリエンテーション	9月2日	東京四ツ谷		本部
共益	第24回支部例会	9月20日	高崎南公民館(高崎)*予	例会	事務局
	スカイビュートレイル	9月22~24日	武尊山周辺	トレイルラン競技運営	(岳連)
	日本山岳会支部合同会議	9月23・24日	東京四ツ谷		支部長・事務局長
	全国支部合同懇談会	10月13・14日	筑波山		(茨城支部)
	群馬県民登山大会(岳連)	10月29日		(チャレンジキッズ併催)	山行委員会(岳連)
共益	第10回支部山行	10月	尾瀬	支部山行	山行委員会
	木暮理太郎翁碑前祭・偲ぶ会	11月3日	太田		(語り継ぐ会)
共益	第25回支部例会	11月15日	高崎南公民館(高崎)*予	例会	事務局
共益	第11回支部山行	11月	西上州笠丸山(上野)	支部山行	山行委員会
	日本山岳会年次晚餐会	12月2日	京王プラザホテル (東京新宿)	晩餐会	会員
共益	支部報第7号発行	1月17日			事務局
共益	第26回支部例会・新年懇親会	1月17日	うたや *予		事務局
	4 支部合同懇談会	2月17・18日	那須		(JAC栃木支部)
共益	第12回支部山行	2月	足利行道山	支部山行	山行委員会
	木暮理太郎翁の足跡を語り継ぐ会総会	3月	太田		(語り継ぐ会)
	第27回支部例会	3月21日予定	高崎南公民館(高崎)*予	例会	事務局
	チャレンジキッズ	3月	玉原 (スノーシュー登山体験)		山行委員会(岳連)

### 私のおすすめ

### 地図に山名ない 熊倉山

#### 小野里節司

甘楽町小幡を南下すると宝積寺入り口の看板が 左に見える。小幡藩の菩提寺と菊女伝説、季節の 花でも有名。甘楽在住の黛利信会員(=**写**真)が 同行なので心強い。

林道終点で、群馬百名山の天狗山直下に車を置き歩きだす。コルから下ると直ぐに白倉神社がある。神楽殿もある立派な神社で天狗様を奉ってある。コルから南に藤岡と甘楽の境界尾根に出る。

1時間ほどで小さい看板の熊倉山に着く。山頂か

ら北へ急坂を 下ると「おった」 の間」が見える。 根 そこが を 強い が見か下 り車に約3 間で もどる。





# 黒部峡谷下ノ廊下へ 3年越しのチャレンジ

小池 千秋

平成28年10月15~16日、下ノ廊下へ行く機会がとうとうめぐってきた。3年越しのチャンスである。大雪でルートが開かなかったり、仕事の都合でドタキャンになったりと拒否され続けたこの山行、実は今回も一週間前に扇沢の駐車場で前泊していたのだが、明け方まで大雨が降っており、自分には危険と判断し、断念していた。下ノ廊下は言わずと知れた黒部ダム下流を渓谷沿いに下る約30kmのコースである。コース中ほどにある仙人谷ダムを境に上流側



日電歩道

を日電歩道、下流側 を水平歩道と呼ぶら しい。今回は前泊(扇 沢車中泊)をして、 阿曽原温泉小屋での テント泊の1泊2日 で歩く。

秋らしく冷え込む モルゲンロートの

中、始発のトロリーバスに乗るため数百人の行列に並んだ。「みんな下ノ廊下に行くのか…」と思えてしまうところが不思議な心理だが、自然と周りの会話が気になってしまう。このルートは行程が長いだけに少しでも早く出発したい気持ちはだれでも同じであろう。始発のトロリーバスに乗り、聞きなれた車内放送を耳にすると、山を歩ける幸せをかみしめずにはいられなくなる。

黒四ダムのダムサイトに着くといよいよ沢に下るコースに入る。黒部川右岸を水面近くまで下り、橋を渡って左岸を下流へと進む。すでに、V字谷を呈している地形には、これから向かうルートが、一本の線として、川岸の壁に刻み込まれ、はっきりとトレースできるようになる。好天も後押しし、快適にルートを進む。ルートはその多くが50cmから1mほどと幅が狭く、川側が崖となって落ち込んでいるため、万が一滑落すれば死に直結することもある。「黒部渓谷に怪我はない」を言われる所以である。下流から逆ルートをたどる登山者も数組あり、すれ違いにも神経を使う。

下流に向かうに従い、川面とルートが離れ、高度感が増してくる。危険な場所にはワイヤーが張られているので少し心強い。順調に高度を下げ、2011年の大崩落の後に設置された木道を慎重に通過する。一つ目の尾根をまいたあたりで、後ろから元気のい

い若いカップルがよいのできる譲いのできる譲るのできる譲るのでもを譲るの生がでの二人が20mに差し掛かった、女性



十字峡

が連れの写真を撮ろうと振り返った瞬間、沢水にぬれた石で足を滑らせ、目の前で滑落した。この空間にいたのは、自分の連れも含めて4人。その瞬間を目の当たりにし、滑落している数秒間、誰も声が出なかった。女性は滑り台のような岩盤を30mほど落ちていった。脳裏に最悪のシーンが一瞬よぎる。たまたま沢地形であり傾斜が45度程度だったこと、なまた先が、握りこぶし程度の小石敷だったこと、リュックを背にして滑り台をすべるように落ちたたと、運動神経が良かったことなど、もろもろの条件が重なり、なんと軽い打撲2か所で済んだようだ。奇跡。岩がなめているので自力で上がることができず、後ろからきたスキルの高そうなパーティーにロープで引き揚げてもらった。

十字峡、仙人谷ダムを通過し、無事に阿曽原温泉小屋に到着しテントサイトを探す。なんと満員御礼状態だ。最後の数張に滑り込んだ。時刻は16時。夕食も a 米で簡単に済ませ、持参した焼酎をあおりながら明朝の暗闇の出発に備えてルートを目視し、温泉には入らず19時頃就寝した。 2 日目は 4 時起床、暗い中を出発する。このルート、トンネルもあるのでヘッドライトは必須である。薄明の中、壁に削り込まれた水平歩道が姿を現す。初日より川面との距離が断然広がり、落ちれば垂直方向に100m以上落ちそうな印象だ。「おおっ、ここが大太鼓。思った



より高度感がい。 度見したがらに通いに通いたがい。 性ソントに通いにもりのすっいた。 がい、かやいまいたが、 がい、かやいまいた。 がい、かやいまいた。 がい、かいまいた。 がいまいた。 がいた。 がいまいた。 はいまいた。 がいまいた。 はいまいた。 はいまいな。 はいな。 はいな。

すれ違うトロッコは、欅平を目指す観光客でいっぱいだ。宇奈月駅では地ビールでプチ下山祝いして帰路につく。北陸新幹線、一部ディーゼルの大糸線を乗り継ぎ最後はバスで扇沢へ。北陸新幹線の開通で阿曽原温泉から扇沢まで一日で戻れるようになったことが今回の山行を可能にさせた。山との向き合い方を再度考えさせられた2日間であった。

### 四国遍路の記

黛 利信

2016年の春から晩秋にかけて、妻と二人、6回の通算で41泊47日を要した四国八十八箇寺1,137kmの遍路が結願し、その足で高野山を参拝した。会社勤めを終え、自分を見つめなおす機会としたいと、だいぶ前から考えていて、前年春には秩父三十四箇寺を歩いてそれに備えた。

### 【四国遍路の変遷】

古代、四国は辺地と呼ばれていた。平安時代には、修験者の道であり、讃岐生まれの空海もその一人であった。空海の入滅後、修行僧らが空海(大師)の足跡を辿って遍歴の旅を始めた。これが四国遍路の原型とされる。室町時代には僧侶の遍路が盛んになった。

江戸時代初期に「四国遍路」という言葉と概念が成立した。この頃には僧侶だけでなく民衆が遍歴し始める。昭和30年代頃までは、交通事情も悪く、今日のような手軽なものではなかった。しかしながら、次第に観光化の道を歩み始める。

現代では、信仰のための巡礼者もいるが、1990年代後半からは、いわゆる自分探し、癒しとしての巡礼者が増えたといわれる。一時期減った歩き遍路も同じ頃から増えた。巡礼者数は年間 $10\sim30$ 万人(うち歩き遍路が $2,500\sim5,000$ 人)とも。(参考文献;ウィキペディア2017年6月19日)

### 【計画】

私は、旅や山行に際し、自ら計画することが好き で、四国遍路の計画にも多くの時間を割いた。すべ



四万十川のウナギ

るわけではないので、日程を変えるか歩行距離を延 長または短縮する。往路は飛行機のため、2カ月前 に計画を確定して早割チケットを手配し、宿を予約。

なお、歩き遍路さんの多くは、前日または前々日、 進捗状況に合わせ宿を予約している。

計画には、出版物やWeb情報が役立った。『四国

遍路ひとり歩き同行二 人 地図編』(遍路道 保存協力会)は必需。

### 【歩く】

歩き遍路道や車遍路 道として推奨する道が 前述の地図に掲載され ている。歩き遍路道は 古道が多く、主要道か



道しるべ

ら離れた旧市街地、農村地や山道を行く。標高500 m超の山懐に建つ寺が6箇所あり、また峠道も多い。 困るのはトイレと食事。車の往来が少ない道にはコンビニはなく、閉店している店が目立つ。一度は、予備食に手を付けた。

一方、車道では、排ガスと騒音、雨の日には水しぶきの洗礼を受ける。照れば陽射しが強く、荒れた日には海でさえ波しぶきを吹きかける。それもこれも大師様が我々に与える試練だと快諾する。

宿から次の宿へと丸一日歩けた場合の平均歩行距離は29.1km。途上に適当な宿がないために、20kmに満たない日や35kmを超えた日も。飛行機で着いて歩き、歩いてから帰途の電車に。

端的に言えば、歩くことが遍路であり、47日間で300時間に及んだ歩きは、自分を見つめ、過去を想い、 未来を考える場だったのだ。

### 【出会い】

自分を見つめるもう一つの場は、宿泊やお接待での出会い。肩書や義理抜きで語り合え、人情の機微に触れることができる。特に、女将の多くは、損得勘定を超えてお遍路さんに尽くしてきた真心が感じられる。客の減少や後継者難等、悩みを抱えながらも心を強くして頑張っている。

私たちは、40回を超えるお接待を受けた。ご婦人からお菓子や果物をいただいたり、女将から昼食のおにぎりをいただいたり多様で心温まるものだった。

あるお遍路さんは、納経より出会いの方に価値を 感じて二巡三巡と回を重ね、同じ宿に泊まっている と



お接待听で

## 未踏の地にトレイルを ぐんま県境稜線トレイル現地調査

鈴木 良徳

昨年9月に群馬・長野・新潟の県境100km稜線上 唯一の未開通部分である三坂峠―白砂山間を県山岳 団体連絡協議会加盟三団体(日本山岳会群馬支部、 県山岳連盟、県勤労者山岳連盟)による調査を実施 した。各団体よりメンバーを募りチームを編成し、 本隊員およびサポート隊員と数回の事前打ち合わせ を行った。国内最長の稜線トレイル計画で残る空白 部分を埋めるべく万全の体制を組み、3日間の挑戦 をした。

## 9月2日(金) / 快晴・雨―渋川市…野反湖登山口~堂岩山手前水場で野営(9:00~15:30)

渋川市内でメンバーと合流し、野反湖へ向かう。 野反湖畔の登山口で、若干遅めの昼食をとる。メンバーの荷物も三日間の食料や水、テント、シェラフ 等で30kg前後の重量か?2時間半くらいの歩きで



上ノ間山で見つけた 「1976年群大ワンゲル」 のプレート

幕営場に着く。夕食を岳連メンバーと一緒に摂り、お互いに忍ばせたアルコールで懇親を図る。夜半に突然の大雨がありツェルトが潰れてシェラフが濡れるハプニングも…。

9月3日(土)/曇り~雨—堂岩山手前水場~上ノ

### 倉山手前で野営(5:30~17:30)

白砂山山頂はガスで全く見えず、まさに五里霧中 の状況。記録担当としては厳しいロケーションと言 える。全員しっかりと装備を整え、いよいよ核心部 分の藪漕ぎに入る。蔓巻きを逃れ、潅木をはらい、 雨に濡れた竹を踏み倒しつつ滑りに気を使う。特に 忠次郎山先は東が切れ落ちて竹に掴まりながらの登 下降でなんど転んだことか―。前との距離が近いと 跳ね返りの竹が当たり、離れると右なのか左に向か ってるのか判からず、ほどほどの距離感で前につい て歩く。途中から遅れがちなメンバーのサポートを 依頼され最後尾につく。GPS・コンパス・読図力に 優れ、経験に富むエキスパート揃いだが、見通しの 利かない雨降るガスの稜線で尾根筋道を何度か迷い 尾根越えを強いられる。薄暮が迫るなか幕営地を探 すも適地がなく、上ノ倉山手前にて幕営を決断。終 日雨とおつきあい…。

### 9月4日(日) /雨—上ノ倉山手前~三坂峠~三 国スキー場跡(6:00~18:00)

朝から雨でカッパを着用となる。大黒の頭から先は特に滑り、竹に掴まりながらの登下降で肩に力が入り、昨日からの雨の中の藪漕ぎで筋肉が張る。ムジナ平付近で水場の確認のため少し入った場所で急斜面を30m程落下してしまった。転げ落ちた先に水場を確認し戻るも、濡れた急坂の藪は登るのに一苦労。その後、三坂峠までの雨中の藪漕ぎは続き、前日同様に体力勝負の2日間であった。

## 来年の開通へ向け事業加速

県境稜線トレイル

スポーツ振興課を中心に群馬県が進めている国内最長の稜線ロングトレイル「ぐんま県境稜線トレイル」プロジェクトも2年目を迎えた。3月18日には女優の工藤夕貴さんを招いての「推進シンポジウム」を県と県山岳団体連絡協議会が共催し、400人を超える聴衆が会場の県庁県民ホールに集まった。橋本会員らの写真展示にも注目が集まった。

6月26日には、稜線トレイル検討委員会の総会が開かれた。総会後には日本山岳会員で山と渓谷社の萩原浩司氏による特別講演も開かれ、一般県

民に稜線トレイルの魅力を語りかけた。今年度は 未開通区間の測量調査や避難小屋の設置検討など がおこなわれるほか、各種PRも具体化していく 見込み。

8月11日の山の日には沼田市と川場村にまたがる21世紀の森で開かれる「21世紀の森まつり」で、正式名称が発表される運び。

日本山岳会群馬支部では5月の総会で稜線トレ

イル研究委員会が 設置され、委員の 武尾会員による原 稿が「山」5月号 の巻頭3ページに 掲載された。



3月のシンポジウ,

## 芝倉沢山スキー

### 小野里節司

栃木支部主催の行事に群馬支部から一人申し込んだ。虹芝寮に泊まってみたかったのと、芝倉沢をまだ滑ったことがなかったからである。

4月15日正午、土合山の家に集合、栃木支部より 6人。土合からシールを着ける。一ノ倉を過ぎると 左に幽ノ沢の岩壁が圧する。55年前の学生時代に右 股と左股を登攀した。右股は10月下旬で、疲れて稜 線に出ると雪が積もっていた。

2時間で虹芝寮着。快適な小屋で、良く管理されている。薪ストーブを囲んで夜遅くまで山談義。16日5時40分発。天気は快晴。堅炭岩が見えるあたりからデブリが多くなる 小野里が遅くなる。先行組

は10時10分に稜線に出る。時間切れで、途中から下る。下りはスキーなので早い。全員小屋にもどり、整理して12時10分小屋を後にし、13時30分土合着、解散。幹事の深谷篤志さんにお世話になりました。(4月15日)



## 支部山行「荒船山·兜岩山」 (平成29年度第1回)

5月28日

メンバー:宮川・鈴木・田中規・西田・中山・根 井・久保田・青木・(宮川)

今年度の第1回山行は荒船山へ。宮川さんをリーダーに新入会の青木さんも参加し、総勢9人で歩いてきました。

内山峠から荒船山の頂上台地を縦断して荒船不動 へ下る班と、荒船山の西に独特の姿でそびえる兜岩



木漏れ日の経塚山頂で

山を目指す班の2パーティに分かれ、初夏の荒船山を楽しみ、下山後はあらふねの湯で汗を流しました。 (根井)

### 群馬の藪山②

【**堂平山**】(2016年10月中旬登山) 2.5万図 至仏山 登り 約50分

片品村役場の北、約7.4km(直線)にあり、 西山(1309.8m)から東に延びる尾根の末端に なる。

国道401号片品から入るにしても国道291号水上から入るにしても、尾瀬の鳩待峠に行くには県道63号に入らなければならない。片品村戸倉から県道63号に折れ、約1.4km笠科川(西栗橋)を渡りさらに北に300m程行くと、左(南)に車道が分岐する。この道は片品村土出から来る道でもあるが、北から入った方が狭い車道を走る距離が短い。道は舗装されている。

左に折れて900m程走った辺りの左側路肩が広くなり、ガードレールも有るので車を停めやすい(P)。山側の傾斜も緩く入りやすい。

山側はカラマツと雑木の藪で適当に西に入るしかない。10mほど登ると、古い作業道跡のような平らな段を横切る。このあたり灌木藪が濃いが、さらに20~30m直登するとほとんど無くなる。

藪を抜け右上の尾根に急登する。帰りのために、このあたりにマーキングした方が良い。下り時、直進すると石垣の法面に出てしまう。

急斜面だが広くハッキリしない尾根を登る。 下草も少なく歩きやすい。尾根が痩せて明瞭に なると傾斜がいったん緩むが左側(東)にザレ た谷を見ると尾根は消え広い急斜面になる。こ の辺りも下りのためマーキングした方が良い。 この急斜面を登ると山頂に出る。三等三角点は わずか南に下った所に頭だけ出している。ミズ ナラの多い雑木林で展望は無い。



(注) この記述は登った当時のもので現状は判りません。事前の調査、地図、コンパス (GPS) 等藪山に入る準備が必要です。また地図上の線はGPSの軌跡ですが正確では有りません。

## 事務局だより

【主な活動・事業・イベント】

〈2017年 1 月〉

- ■新年会・第20回例会(1/18 前橋・うたや) 〈2月〉
- ■4支部合同懇談会(2/18・19 富岡・妙義グ リーンホテル)

講演「群馬のヒマラヤ登山(八木原日山協会長)」・ 懇親会・山行ほか 関連記事2面 〈3月〉

- ■木暮理太郎翁の足跡を語り継ぐ会総会(3/5) 太田) 中山・根井
- ■第21回例会(3/15 高崎・城址公民館)
- ■稜線トレイル推進シンポジウム(3/18 前橋・ 群馬県庁)

工藤夕貴講演・パネルディスカッションなど

関連記事6面

■チャレンジキッズ(3/26 玉原) 岳連事業協 力 中山

〈4月〉

- ■会計監査・役員会議(4/22 高崎・南公民館) 会計監査と次期役員選考・規約改正等について 〈5月〉
- ■平成29年度通常総会・第22回例会(5/17・前橋・ 県社会福祉総合センター) 関連記事2面
- ■群馬県山岳団体連絡協議会総会(5/22 県社 会福祉総合センター) 北原支部長ほか
- ■支部山行「荒船山」(5/28) リーダー宮川

関連記事7面

〈6月〉

- ■茨城支部創立10周年記念式典(6/17 茨城・ 土浦) 北原支部長・根井
- ■日本山岳会総会(6/24 東京・四谷)
- ■支部山行「湯ノ丸山」(6/25) リーダー鈴木
- ■栃木支部山の講演会(6/25 宇都宮) 根井
- ■稜線トレイル検討委員会・特別講演会(6/26 前橋・群馬県庁ほか)

〈7月〉

- ■谷川岳山開き(7/2 みなかみ町・土合) 井(支部長代理)
- ■国体関東ブロック大会主任会議(7/2 前橋・ 県総合スポーツセンター) 根井
- ■日本山岳会関東地区支部事業情報交換・交流会(7) /8 東京・JAC本部) 北原支部長・根井
- ■日本山岳会自然保護全国集会(7/9·10 岐阜) 北原支部長・平野顧問
- ■国体関東ブロック大会全体会議(7/15 前橋・ 県総合スポーツセンター) 根井・鈴木
- ■第23回例会(7/19 高崎・南公民館)

【主な予定(7月20日以降)】

〈7月〉

- ■ぐんま山フェスタ2017(7/22・23 群馬県庁) 主催は実行委員会。岳連、労山、上毛新聞社とと もに共催。斎藤繁会員による講演(健康登山)、 マナスル記録映画、写真展、木暮理太郎資料展示 などを主管
- ■国体ブロック大会(7/29・30 県総合スポー ツセンター)

〈8月〉

- ■山の日イベントin谷川岳(8/11 谷川岳周辺) 湯檜曽川沿いの自然観察ツアーを実施予定
- ■山の日記念21世紀の森まつり(群馬県境稜線ト レイル名称発表・8/11 沼田、川場・21世紀の森)
- ■千葉支部10周年記念式典(8/26 千葉・船橋) 〈9月〉
- ■第24回例会(9/20 高崎・南公民館)
- ■上州武尊スーパービュートレイル(9 / 22 ~ 24 武尊山周辺)
- ■日本山岳会全国支部合同会議(9/23・24 東 京・四谷)

〈10月〉

- ■支部山行「尾瀬方面」(1泊2日・日程未定)
- ■岳連県民登山・チャレンジキッズ(10 / 29 場 所未定)

〈11月〉

- ■第25回例会(11 / 15 高崎・南公民館)
- ■支部山行「笠丸山」(日帰り・日程未定)

〈12月〉

■日本山岳会晚餐会(12/2 東京)

### 【新入会員】

青木美矢子 小島 秀薫

### 【退会】

堀江 昇 斉藤 裕徳

### 【寄稿のお願い】

山行報告・評論・随筆など会員のみなさまか らの原稿をお待ちしています。原稿送付先は下 記のとおりです。

根井 康雄(日本山岳会群馬支部事務局長) 〒371-0051 前橋市上細井町1200-7

TEL • FAX 027-237-0026

mail: nei@k1.wind.ne.jp

※日本山岳会各支部、各種山岳団体で支部報、 会報等お送りいただく場合もこちらへお願い します。

### 日本山岳会群馬支部報 第6号 2017年7月19日

発 行:公益社団法人 日本山岳会群馬支部

Tel 027-333-4372

〒379-0109 安中市秋間みのりが丘5-169(北原方)

発行者:北原 秀介 編集者:根井 康雄

印 刷:上武印刷株式会社